

発行 一般社団法人 日本品質管理学会  
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内  
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507  
 ホームページ:www.jsqc.org/

## CONTENTS

- 1-トピックス 「JSQC認定 品質技術者」の活用のお勧め
- 2-私の提言 品質マネジメントと「見える化」とICT (情報通信技術)
- 2-研究会だより テクノメトリックス研究会
- 3-12月・1月の入会者紹介/新規ワークショップ申請受付/行事案内
- 4-行事案内

## 「JSQC認定 品質技術者」の活用のお勧め

会員サービス委員会 委員長 渡辺 喜道

第42回通常総会において、「JSQC認定 品質技術者」資格を認定することが認められました。自己の品質管理能力の継続的な研鑽をはかるための一助として、この制度を是非ご活用ください。

当学会が認定する品質技術者には2つの種類があります。ひとつは「JSQC認定 品質技術者」で、もうひとつは「JSQC認定 上級品質技術者」です。品質技術者は、品質技術に関する高度な能力を備えており、常に自己の品質技術の向上に努めていることを当学会が認定した技術者であり、上級品質技術者は品質技術に関するより高度な能力を備えており、常に自己の品質技術の向上に努めるとともに、品質技術の普及・発展に寄与できることを認定した技術者です。

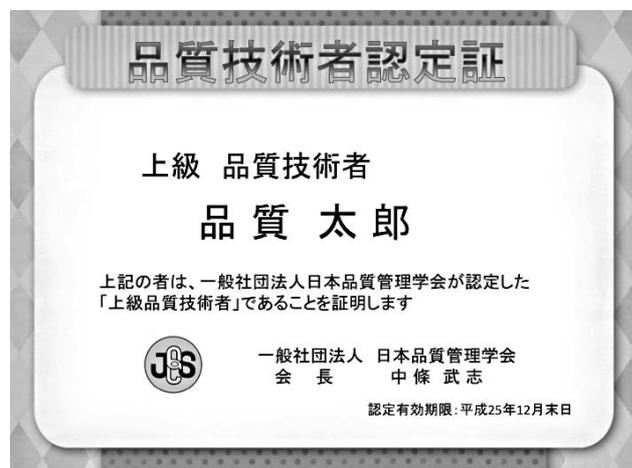
日本の企業・組織は、顧客ニーズの多様化や社会システムの複雑化など多くの課題に直面しています。品質管理は、顧客ニーズに合った製品やサービスの提供と自組織のシーズ(技術・人など)の活用・改革を通して、新たな顧客価値を創造するための方法論であり、変化の激しい現代では、従来に増してその実践が強く求められています。しかし、このような実践には、品質管理に関する深い知識と熱い情熱を持った専門家の存在が不可欠です。品質管理の専門

能力を身につけることは、短期間でできることではありません。この制度を通じて、品質管理の専門家としての認定を受けることにより、品質面で貢献できる能力を有することが明らかになり、ご自身の活動がしやすくなる環境作りにつながるのではないかと思います。

品質技術者の対象は、以下の2つの条件を満たす正会員です。

- (1)上級品質技術者
  - ①品質管理検定(QC検定)1級の合格者であること。
  - ②過去5年以内に実績の換算ポイントを10点以上取得したもの。
- (2)品質技術者
  - ①品質管理検定(QC検定)2級以上の合格者であること。
  - ②過去5年以内に実績の換算ポイントを8点以上取得したもの。

実績の換算ポイントを以下に例示します。品質誌への査読付き論文の掲載は5点、査読なしのシンポジウムや研究発表会等での発表は3点、シンポジウムや研究発表会、事業所見学会、講演会、講座、クオリティトーク等への一般参加は1点です。また、日本科学技術連盟または日本規格協会の行事に対しても、各行事に対して1点~4点の実績の換算ポイントを



図：認定証のサンプル

付けています。

認定の申請を頂いた方について、申請の内容を確認し、条件が満たされていれば認定証をお送りいたします。認定証の有効期限は毎年12月末日です。申請は随時、更新は10月以降に受付します。当該年度会費の入金確認後に認定証を送付します。認定証は図をご覧ください。

品質技術者に認定されると、希望により、当学会のWebサイトで紹介されます。また、名刺に品質技術者の肩書を印刷することができます。さらに、上級品質技術者認定を受けられた方には、希望により、当学会のWebサイトから、ご本人のページにリンクを張ることができます。

この制度を活用することにより、品質管理業務従事者の職能意識の高まりや、品質管理技術に関する知識やスキルの向上に活かして頂きたいと思っています。

## ● 私の提言 ●

## 品質マネジメントと「見える化」とICT (情報通信技術)

コマツ コマツウェイ総合研修センタ 所長 荒井 秀明



「見える化できれば、問題解決は85%達成できる。」と社員に説明している。業務の中で、目標となる基準

値、期待値に到達していない状況をいかに改善していくか、を社員に求めているが、現状を把握すること、現場・現物・現実をしっかりと把握し、要因をつかむことが大事であると説明している。

この過程で要因をつかむためには現状を示す情報やデータを集めて、層別し分析し処置がとれるところまで深く掘り下げて、問題点を「見える化」す

ることが大切である。見えてくれば対応策を出すことが可能になる。品質マネジメントを実行するにあたり基本的なことである。社内でこれを実践させるためには、意識付けや教育研修課程などの仕組み作りと、管理職や指導員が業務を通して繰り返し教え、やる気を引き出す不断の努力が大切である。「鉄は熱いうちに叩け(打て)」と、若いうちに指導されることにより、考え方が身に付き少しずつ思考水準が上がってくる。完璧ならずとも実践で試してみても足りないところを見直していくような進め方を奨励している。

一例として、建設機械にGPSを搭載し、機械の位置情報や運転状況を管理するKOMTRAX (コムトラックス：

遠隔機械管理システム)がある。90年代に盗難にあった建機でATMを破壊し現金を奪う犯罪が起きた。建機が悪用されることを苦々しく思い、盗難にあった機械を追跡できないか、更に盗難にあわないように防止機能を装備できないか、と工夫して数年ごとに進化している。お客様、販売代理店、弊社が、この機能を使って互いに成長している。ソリューションビジネスとして、お客様に所有建機の稼働状況、燃費効率を考え仕事量が多い運転方法、故障未然防止のための定期点検、健康診断など、世界で稼働している30万台以上の建機からリアルタイムで情報を集め、データを分析し「見える化」してお客様に提供している。

ICTの発展に伴い、製品の品質と信頼性、マーケティング、顧客の購買傾向、地震の発生確率、天気予報など、広範囲でビッグデータの活用が進んでいる。品質管理、統計学とICTが人々のくらしを豊かにすることを望んでいる。

研究会  
だより

## テクノメトリックス研究会

## 有益な品質管理手法の開発をめざす

主査 永田 靖 (早稲田大学 教授)

テクノメトリックス研究会が設立されて20年近くになります。一年に4回程度開催してきましたから、約80回の研究会を積み上げてきたことになります。設立当初のメンバーの多くが研究会に参加している一方で、若手のメンバーも徐々に加わり、研鑽を積んでいます。

「統計的手法を中核とした品質管理手法の開発・普及」を目指しています。メンバーが興味あるテーマを持ち寄り、それについて議論を行い、品質管理手法として確立できるかどうかを検討しています。手法の数理的側面の研究を重視している点がこの研究会の特徴です。応用できるようにするためには、手法の数理的正当性が背後になければならないと私たちは考えています。

発足当初は、グラフィカルモデリングの研究を大きなテーマとしていました。初代主査の宮川雅巳氏がわが国で初めて「グラフィカルモデリング」に関する成書を上梓しました。それに引き続き、研究会の成果として解析ソフトを

完成させ、「グラフィカルモデリングの実際」という解説書を刊行しました。それが発展して、現在、因果推論が主要テーマの一つになっています。これは、観察研究を実験研究に近づける強力な道具です。

また、タグチメソッドの研究も大きなテーマととらえています。欧米では、タグチメソッドの数理的な研究が進んでいます。一方、わが国では、事例研究は数多くなされていますが、数理的な研究は十分ではないように思います。テクノメトリックス研究会では、数理的な観点からの検討、改良手法の提案など、数多くの議論を重ねてきました。そして、これらの研究成果は、シンポジウム、研究発表会、品質誌への論文投稿などにより、広く公表してきました。

今後も、こういった方法論・考え方を洗練させていき、わが国の品質管理活動の一助となるように努力していきたいと考えています。

## 2012年12月の 入会者紹介

2012年12月14日の理事会において、下記の通り正会員24名、職域会員1名、賛助会員2社の入会が承認されました。

(正会員24名) ○土屋 幸雄 (パッション・トレーニング) ○大濱 宏和・丸山 剛一郎 (デンソー) ○西村 俊紀 (京セラドキュメントソリューションズ) ○大久保 篤史 (セイコーエプソン) ○田村 基樹 (工藤建設) ○松下 泰幸 ○魚住 隆 (テイ・エステック) ○工代 浩司・中條 伸昭 (リソース・グローバル・プロフェッショナル・ジャパン) ○志田 雅人 (三菱重工業) ○大草 岳視 (日研総業) ○浅沼 努 (ニッポンケミカル) ○柳沼 秀行 (タムラ製作所) ○橋本 吉弘 (キヤノン) ○村上 明 (エム・シー・メディカル) ○伊藤 永康 (東芝ソリューション) ○関根 明彦 (サンデン) ○日高 康博 (日本光電工業) ○穴見 敏隆 (中電レアアース) ○平川 聡 (ITセミコン) ○金子 一郎 (ヨコオ) ○宮嶋 美恵子 (原信ナルスホールディングス) ○下野 一也 (黒崎播磨セラコーポ)

(職域会員1名) ○中村 和広 (ヤマハ発動機)

(賛助会員2社2口) ○東京エレクトロニクスFE ○日本科学技術研修所

## 2013年1月の 入会者紹介

2013年1月29日の理事会において、下記の通り正会員12名の入会が承認されました。

(正会員12名) ○田原 総一郎・土屋新平 (吉野工業所) ○萬木 智 (グローバルテクノ) ○石塚 禎 (三和工機) ○大月 弘行 (フューチャーマネジメ

ント研究所) ○本野 正大 (三省製薬) ○伊藤 雅記 (住友化学) ○安部 亮輔 (三菱電機) ○迫田 章人 (新日鐵住金) ○==== (=====) ○村田 周二 (デンソー) ○嘉久 貴士 (コンサルタント)

正会員：2273名  
準会員：102名  
職域会員：1名  
賛助会員：161社214口  
公共会員：22口

## 新規ワークショップ申請受付

研究開発委員会では、新規ワークショップの申請を受け付けます。奮って申請してください。特に、若手会員をリーダーとするワークショップを歓迎いたします。

ワークショップとは気軽に参加できる問題検討の場であり、学会員が現場ベースで交流し、産業界等の品質管理に関するニーズを理解し、サポートできるような場を提供し、問題解決を図ることを目的としています。

期間：承認日から最長1年間

申請方法：「新規ワークショップ設置申請書」(様式204-4)をホームページよりダウンロードし、ご記入の上、電子ファイル送信と共に申請書を郵送で本部事務局宛にお送りください。

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南1-2-1

日本品質管理学会 事務局 Eメール office@jsqc.org

申込締切：随時受け付けます。

ワークショップの申請と運営：

○申請方法は2種類です。ひとつは、申請者が共同研究者(学界・産業界等)を10人以内で事前に働きかけて集め、申請書に記入し提出する方法です。もうひとつは、申請者の情報と取り組みたい内容(目的と計画・方法)のみを記入し、申請書に記入し提出した後に、共同研究者を募集する方法です。

○費用は学会費からは支出しません。すべて受益者負担とします。

○構成員全員が何らかの材料を持ち寄ることを原則とします。

○会合場所は原則的には日科技連としますが、構成員の企業・大学などでも構いません。企業訪問による現場討論でも結構です。

## 行事案内

### ●第2回JSQC規格「品質管理用語」講習会(本部)

テーマ：用語の定義を通して品質管理の本質を学ぶ

日時：2013年5月23日(木)13:00~17:00

会場：日本科学技術連盟千駄ヶ谷本部3号館2階講堂

詳細：ホームページをご覧ください。

申込方法：

ホームページからお申し込みできます。

<http://www.jsqc.org/q/news/events-list.html>

### ●第101回研究発表会(本部)

日時：2013年5月25日(土)26日(日)

会場：日本科学技術連盟  
東高円寺ビル

プログラム：

・5月25日(土)

12:30~13:30

チュートリアルセッションA

「日本の製造業—これからの品質—」

久米 均氏(東京大学)

13:35~14:35

チュートリアルセッションB

「会社の『品質』—グローバル・

エクセレント・カンパニーズ—」

牛久保雅美氏(サンデン)

14:35~15:05 研究紹介ポスターセッション

15:05~18:15 研究発表会

18:30~20:00 懇親会

・5月26日(日)

10:00~15:15 研究発表会

参加費：

チュートリアルセッション・研究発表会

会員 6,000円(締切後 6,500円)

非会員 12,000円(締切後 12,500円)

準会員 3,000円・一般学生4,000円  
 研究発表会(ポスターセッション含む)  
 会員4,000円(締切後4,500円)  
 非会員8,000円(締切後8,500円)  
 準会員2,000円・一般学生3,000円  
 懇親会

会員・非会員 4,000円

準会員・一般学生2,000円

申込締切:2013年5月15日(水)

申込方法:

4月送付の参加申込書にご記入の上、  
 本部事務局までお申し込みください。  
 ホームページからも申し込みできます。  
<http://www.jsqc.org/q/news/events-list.html>

### ●第117回講演会(関西)

テーマ:世界にはばたく日本型新商品開  
 発と技術開発の実践例

日時:2013年5月27日(月)13:30~17:10  
 会場:中央電気倶楽部 5階ホール

プログラム:

講演①:「日本生産にこだわった新商  
 品開発」

岡田慎也氏(ダイキン工業)

講演②:「一輪車型ロボット ムラタセ  
 イコちゃん®の開発」

吉川浩一氏(村田製作所)

参加費:会員4,000円 非会員5,000円  
 準会員2,000円一般学生2,500円  
 ※当日払い

申込方法:

4月送付の参加申込書にご記入の上、関  
 西支部事務局までお申し込みください。

### ●第116回講演会(中部)

日時:2013年5月28日(火)13:00~16:40  
 会場:刈谷市総合文化センター  
 1階小ホール

プログラム:

講演①:「日本のものづくり技術神話  
 再考~グローバル市場で選  
 ばれるために~」

吉川良三氏(東京大学、元サムスン)

講演②:「「質」とは何か~医療技術  
 開発を例として~」

富田直秀氏(京都大学)

参加費:会員4,000円 非会員5,000円  
 準会員2,000円一般学生2,500円

申込方法:中部支部事務局までE-mailまた  
 はFAXにてお申し込みください。

### ●第363回事業所見学会(本部)

テーマ:キリンビールの品質と環境への  
 とりくみ

日時:2013年6月12日(水)14:00~16:20  
 見学先:キリンビール(株) 横浜工場

定員:40名

参加費:会 員2,500円 非会員3,500円  
 準会員1,500円 一般学生2,000円  
 ※当日払い

申込締切:6月6日(木)

申込方法:本部事務局までE-mailまたは  
 FAXにてお申し込みください。

### ●第92回QCサロン(関西)

テーマ:研究開発におけるチームマネジ  
 メント

ゲスト:松本哲夫氏(ユニチカ)

日時:2013年6月12日(水)19:00~20:30

会場:中央電気倶楽部 5階513号室

参加費:1,000円(含軽食・当日払い)

申込方法:関西支部事務局までE-mailまた  
 はFAXにてお申し込みください。

### ●第83回クオリティトーク(本部)

テーマ:Quick DRによる未然防止

ゲスト:大島 恵氏(ボッシュ)

奈良敢也氏(日産自動車)

日時:2013年6月17日(月)18:00~20:30

会場:日本科学技術連盟

東高円寺ビル5階研修室

定員:30名

参加費:会員3,000円 非会員4,000円

準会員・一般学生2,000円

(含軽食・当日払い)

詳細:ホームページをご覧ください。

申込方法:本部事務局宛E-mailまたはFAX  
 にてお申し込みください。

### ●第364回事業所見学会(本部)

テーマ:日米の文化を超えた改善 リー  
 ンの紹介

日時:2013年6月27日(木)13:30~16:30

見学先:米海軍横須賀基地

FLCY及びSRF-JRMC

定員:40名(会員優先)

参加費:会 員2,500円 非会員3,500円

準会員1,500円 一般学生2,000円

※当日払い

申込締切:6月21日(金)

申込方法:本部事務局宛E-mailまたはFAX  
 にてお申し込みください。

### ●第148回シンポジウム(本部)

テーマ:ISO 9001第三者審査の質向上  
 と組織での有効な推進方法

日時:2013年7月20日(土)9:55~17:00

会場:日本科学技術連盟

千駄ヶ谷本部 1号館3階講堂

定員:150名

参加費:会 員 5,000円(締切後 5,500円)

QMS部会員3,000円(締切後 3,500円)

非会員 10,000円(締切後10,500円)

準会員2,500円 一般学生3,500円

申込締切:7月12日(金)

詳細:ホームページをご覧ください。

### ●第147回シンポジウム(関西)

テーマ:ビジネス、ヒット事業の作り方

日時:2013年7月23日(火)13:00~17:30

会場:大阪大学中之島センター

10階メモリアルホール

プログラム:

講演①:「グローバル競争における競  
 争優位性の実現方法:製品  
 設計思想をどこに求める  
 か?」(仮題)

藤原浩一氏(同志社大学)

講演②:「人と組織から考える、ヒッ  
 ト事業の作り方」

松岡保昌氏(キャリアファーム)

パネルディスカッション

参加費:会 員4,000円 非会員5,000円

準会員2,000円一般学生2,500円

※当日払い

申込方法:関西支部事務局までE-mailまた  
 はFAXにてお申し込みください。

### ●第102回研究発表会(中部) 発表募集

日時:2013年8月28日(水)

会場:名古屋工業大学

申込締切:

発表申込締切:5月31日(金)

予稿原稿締切:7月19日(金)必着

参加申込締切:8月21日(水)

申込方法:

中部支部事務局までE-mailまたはFAX  
 にてお申し込みください。

詳細:ホームページをご覧ください。

### ●第103回研究発表会(関西) 発表募集

日時:2013年9月13日(金)

会場:大阪大学中之島センター

申込締切:

発表申込締切:7月26日(金)

予稿原稿締切:8月28日(水)必着

申込方法:関西支部事務局までE-mailまた  
 はFAXにてお申し込みください。

詳細:追ってご連絡します。

### 行事申込先

JSQCホームページ:[www.jsqc.org/](http://www.jsqc.org/)

本部:TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail:apply@jsqc.org

中部支部:TEL 052-221-8318

FAX 052-203-4806

E-mail:nagoya51@jsa.or.jp

関西支部:TEL 06-6341-4627

FAX 06-6341-4615

E-mail:kansai@jsqc.org